

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 筑波大学大学院人文社会科学研究所 田中洋子研究室 URL <http://www.sssp-online.org/>
Tel: 029-853-4161 E-mail: tanaka.yoko.ft@u.tsukuba.ac.jp
- ◇ 編集・発行 田中洋子(代表幹事) 山田和代(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 126 回(2013 年度春季)大会自由論題、
テーマ別分科会の報告募集
2. 第 124 回大会(2012 年春季)報告
3. 第 124 回大会(2012 年春季)会計報告
4. 雇用・社会保障の連携部会活動報告
5. 関西部会活動報告
6. 国際交流委員長の任期を振り返って
7. 研究会情報ブログ
8. 道又健治郎名誉会員の逝去について
9. 秋季大会企画委員会報告
10. 2012-2014 年期幹事会報告
11. 承認された新入会員

1. 第 126 回(2013 年度春季)大会自由論 題、テーマ別分科会の報告募集

社会政策学会第 126 回大会は、2013 年 5 月 25 日(土)と
26 日(日)に青山学院大学青山キャンパスで開催されます。

春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題お
よびテーマ別分科会での報告を募集いたします。報告をご希
望の方は、下記の要領でご応募ください。

なお、5 月 25 日(土)を共通論題にあてます。自由論題お
よびテーマ別分科会は 5 月 26 日(日)となります。

(1)自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームペ
ージからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル(日本語、英
語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、氏名(ふりがな、
英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字
程度の邦文報告要旨、英文アブストラクト、専門分野別コード
(1.労使関係・労働経済、2.社会保障・社会福祉、3.労働史・
労働運動史、4.ジェンダー・女性、5 生活・家族、6.その他)等
の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail
アドレスにご応募ください。

自由論題報告応募・問い合わせ先
担当委員 :小澤 薫(新潟県立大学)
spring126jiyu@yahoo.co.jp

なお、論文、あるいは他の学会報告等のかたちで既発表
の報告の応募は、不採択いたしますのでご注意ください。

また、自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度
まで会費を納入されている方です。

当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

(2)テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホーム
ページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル(日
本語、英語)、分科会設定の趣旨(400 字程度、非会員を報
告者に招聘するときは、招聘しなければならない理由を記
入)、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな、英語)、所属
機関とポジション(日本語、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、
E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな、英語)、所属機
関とポジション(日本語、英語)、E-mail アドレス、各報告の
邦文報告要旨(400 字程度)と英文アブストラクト、予定討論
者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、
英語)等必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の
E-mail アドレスにご応募ください。なお、テーマ別分科会の
企画に応募資格があるのは会員のみです。

テーマ別分科会報告応募・問い合わせ先
担当委員 : 首藤若菜(立教大学)
bunkakai2013@yahoo.co.jp

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意
事項です。

(3)応募は、原則として、学会ホームページからダウンロード
した応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上
記の各 E-mail アドレスにお送りいただくことになっています。

しかし、コンピューター環境が整っていない場合は、上記
の通りの必要事項をきれいに記載して、下記の春季大会企画
委員長宛に郵送でお送りいただいても結構です。

(4)応募用紙の「趣旨」「報告要旨」の「400 字程度」との字数
をお守りください。記入の不完全なもの、字数の著しく過剰な
ものや過少なものは、応募を不採択とさせていただくことがあ
ります。

(5)今回から、自由論題・テーマ別分科会の報告のいずれに
ついても、英文のアブストラクトを提出していただくことになり
ましたので、ご注意下さい。英文アブストラクトには語数の基
準は設けませんが、邦文の報告要旨と同内容となるようにし
てください。また、学会では英文の校閲は行いませんので、
英文については、原則としてネイティブ・スピーカーによる校
閲を受けた上で、誤りや不適切な表現がないものを提出して
ください。英文アブストラクトは、学会の英文ホームページで
公開されます。

(6)応募にあたっては、2013 年 1 月 11 日(金)現在の所属

機関とポジションをご記入ください。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。4月1日より変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書きくださることで、変更にご対応ください。

(7)応募の締め切りは、2013年1月11日(金)です。昨年度よりも締め切りが早くなっていますので、ご注意下さい。

郵送の場合は当日必着です。締め切りは厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。

(8)応募された方に対しては、締め切りから1週間以内に応募用紙受理の連絡を行います。この時まで連絡のない場合はなんらかの事故の可能性がありますので、問い合わせ先 E-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画委員長宛)にお問い合わせください。

(9)応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、2月中旬までにご連絡する予定です。

(10)自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方には、5月16日(木)~22日(水)必着でフルペーパーを、自由論題は100部・テーマ別分科会は150部(日本語が望まし

いが英語も可、その他の言語は不可)開催校にお送りいただくことをお願いしていますので、あらかじめご了解ください。送付先等の詳細は、後日、ご連絡いたします。

(11)自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員は、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、幹事会と学会誌編集委員会ではつよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆ください。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは会員のみです。

(12)応募された後で、応募を取り下げること(報告のキャンセル)はできませんので、ご注意下さい。

春季大会企画委員会委員長 平岡公一(ひらおかこういち)
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学社会学研究室
電話・FAX:03-5978-5246(研究室直通)
Email: hiraoka.koichi@ocha.ac.jp

(春季大会企画委員会委員長 平岡公一)

2. 第124回大会(2012年春季)報告

1. 大会開催にあたって

社会政策学会第124回(2012年春季)全国大会は2012年5月26日、27日の両日、駒澤大学駒沢キャンパス(東京都世田谷区)で開催された。

この春、関東では竜巻やゲリラ豪雨など天候急変が多く、大会前日や直後の月曜日にも世田谷の地にはわか雨に見舞われていた。しかし、大会の2日間だけは爽やかな春の陽光に恵まれ、とても幸運であった。

本学に阿部代表幹事(当時)から全国大会開催の打診があったのは、2010年春の第120回大会(早稲田大学)の直前で、前回の本学での大会開催からちょうど20年の節目にあたるということもあり、お引き受けした。ただし、昼夜フレックス制学部のある本学では、土曜も夜まで授業が行われているために教室の大量確保が難しく、幹事会・企画委員会と相談の上、土曜日が終日共通論題、日曜日がテーマ別分科会・自由論題というスケジュールを組んだ。

共通論題は、午前「福島原発震災と地域社会」、午後「震災・災害と社会政策」の二部構成で、被災地域の現場の方と研究者が一堂に会して真剣な議論が交わされた。

今回の新たな試みは、土曜日のみ一般市民の参加費を無料としたことにある。その総数は25名、内訳は関東13名、東北6名、西日本2名、不明4名であった。

大会自体への参加者は、事前申込者243名、当日参加154名(うち非会員51名)で総計422名という規模になった。共通論題の会場となった100周年記念講堂は、2階も含めると1200席以上あるが、各席に備え付けのテーブルがないため、メモ用にプラスチック製のクリップボードを購入し、それらも含めた資料類の重量に耐えることが出来るよう、愛媛大学

大会にヒントを得て、無地のトートエコバッグを大会経費から準備した。

2. 大会準備・運営について

実際に開催にあたってみて、数百人規模が参加する大会の運営の難しさを身にしみて感じると同時に、過去に大会を引き受けてこられた開催校に改めて感謝の気持ちでいっぱいになった。とはいえ、本学には幸い6名の会員が在籍していたので業務を分担できたが、今後もこれだけの規模の全国大会を年2回コンスタントに開催していくには、できるだけ負担が小さくなるよう改良を重ね、次期開催校にバトンタッチするのが責務だと感じた。

今回一番苦労したのが報告者のPowerPointファイルの受け取りであった。報告者が作ったファイルを事前に開催校に添付ファイルで送信してもらい、それを各教場のPCにセットしておくという方法が従来採られてきたので、今大会も踏襲した。しかし、開催直前に届いたファイルの動作確認を行い、全8教室に各ファイルを事前にPCにコピーしておくという作業には予想外に時間がかかった。次期開催校の長野大学にはその旨申し送りをしたため、報告者が当日ファイルを持参し、自らPCにセットする方式に変更された。

3. 懇親会について

懇親会への参加者数は、事前申込103名、当日参加53名の合計156名であった。

地方の大会では、その地域ならではの名産品や銘酒でもてなしていただくことが多いが、東京開催の我々には出来ないことはないかと考えあぐねた結果、地場産業に詳しい非会員教

員の協力も得て、東京の天気予報に出てくるいわゆる首都圏（関東+山梨）を「私たちの地元」と見立て、各都県の地ビール、地酒、地焼酎、地ワインを集めた。

懇親会場は学内施設を格安で利用できたため、そこで浮いた費用を料理とドリンク代に充てることが出来た。午後の部がずれ込み、施設利用時間に制約があったため、懇親会で十分な時間くつろいでいただけなかったのが残念だった。

4. 費用について

本学会は、大会開催時に学会本部から費用が一括で振り込まれ、残金が生じた場合に返還するというシステムになっているので、予算が立てにくいとか、運転資金に困るというようなことがなく、スムーズな運営が出来た。今後も同様の方法を続けるのが良いと考える。

他方で、近年の大会では懇親会の当日参加者が事前申込者の5割前後の規模で変動し、その予測に苦慮している。会員としては、参加が決まっている場合には出来るだけ事前

申込を心がけることが今後の開催校の負担を少なくしていくことになるのではないかと考える。

5. 反省点

前日夜まで学会借用会場を他団体が利用していたため、当日にしか掲示や会場設営が出来ず、結果として、初日昼休みの各種委員会・専門部会の参加者に会場周知が十分に出来ず、ご迷惑をおかけしたことをお詫びしたい。

全体を通して、これまでの開催校が残してくれた資料、ノウハウがとても役に立ち、直前の明治学院大学、京都大学の各実行委員会より種々のアドバイスをもらい、大きな不安材料も無く大会を運営し、閉じることが出来た。関係各位に改めて感謝申し上げる次第である。

(大会実行委員長 光岡博美)

3. 第124回大会(2012年春季)会計報告

本会計

収入		支出	
大会開催費(学会本部)	1,000,000	プログラム・封筒印刷代金	316,417
大会開催費追加(学会本部)	200,000	プログラム送料	107,160
		アルバイト人件費	337,100
		アルバイト昼食代	24,000
		エコバッグ	113,400
		クリップボード	74,760
		名札・文具	46,289
		通信費	12,320
		会議費	23,634
		休憩室飲料代	31,081
		収支差	113,839
合計	1,200,000		1,200,000

(注)本会計収支差(113,839円)は学会本部へ返納する。

別会計

収入		支出	
広告収入	120,000	懇親会経費	876,109
お弁当代	114,000	お弁当代	114,000
懇親会参加費	791,000	収支差額	34,891
合計	1,025,000		1,025,000

学会本部への振込金額(2012.07.04)

大会参加費(事前振込)	556,500
大会参加費(当日支払)	426,500
本会計収支差額返納	113,839
	1,096,839

参加人数詳細

大会参加		懇親会	
事前振込	243	事前振込	103
当日参加(会員)	103	当日参加(会員・非会員)	53
当日参加(非会員)	51		
市民参加(無料)	25		
合計	422		156

市民参加の内訳

属性		地域	
研究者	4	東京都	9
学生	1	神奈川県	1
お勤め	10	埼玉県	1
その他	2	千葉県	2
院生	8	宮城県	4
不明	0	福島県	2
		京都府	1
		愛知県	1
		不明	4
	25		25

本会計は結果的に黒字になりました。教室・ホールの利用料がかからなかった分、施設の足りない分を補うために、クリップボードを購入しました。託児施設の利用者はいませんでした。本決算の収支差の黒字額は、学会本部に返納という形で処理いたします。

別会計も黒字決算となりました。懇親会の収支については145名を採算ラインで予想していましたが、事前申し込み103名、当日申し込み53名ということで、結果的に黒字を計上することとなりました。別会計の剰余金については、慣例に従い、駒澤大学に所属する社会政策学会員6名の教育・研究活動費に充てさせていただくことと致しました。

4. 雇用・社会保障の連携部会活動報告

社会政策学会第122回大会・テーマ別分科会

「雇用・社会保障の連携部会」

日時：2011年5月21日(土) 9:30～11:30

場所：明治学院大学

テーマ：「非典型雇用の多様性—社会政策への示唆」

座長：石川公彦

コーディネーター：高田一夫

1. 「アメリカの病院組織とその管理—看護師の派遣労働という視点から」 早川佐知子(明治大学大学院)
2. 「若年ホームレスの就労経験に関する分析—就労自立から安定喪失、就労困難まで」 飯島裕子(一橋大学大学院)

研究会 第1回(通算第7回)

日時：2011年5月21日(土) 11:30～13:00

場所：明治学院大学

参加者：10名

テーマ：「書評」Richard B. Freeman et al., eds., Reforming the welfare state—Recovery and beyond in Sweden, Univ. of Chicago Press, 2010

報告者：高田一夫(一橋大学)、山本麻由美(北翔大学)

研究会 第2回(通算第8回)

日時：2011年5月23日(月) 13:30～18:00

場所：明治大学

参加者：7名

テーマ：

1. 「『積極的労働市場政策』向け公的支出の国際比較」 稗田健志(早稲田大学)
2. 「地域福祉における住民の主体的な取り組み」 鈴木美貴(一橋大学大学院)

研究会 第3回(通算第9回)

日時：2012年2月18日(土) 13:30～18:00

場所：明治大学

参加者：9名

テーマ：

「ヨーロッパ各国における失業者への政策を俯瞰する」
報告者：久保隆光(明治大学)、佐々木貴雄(東京福祉大学)、稗田健志(早稲田大学)、森周子(佐賀大学)、山本麻由美(北翔大学)

(文責 石川公彦)

5. 関西部会活動報告

第74回社会政策学会関西部会

日時：2011年12月3日

午前の部 10:30～ 午後の部 13:00～

場所：大阪経済大学

参加者：25名

【午前の部】

- (1) 「近代日本における余暇・娯楽と社会政策—権田保之助の所説を中心に—」 大城亜水(大阪市立大学大学院経済学研究科)
- (2) 「中国における賃金決定と工会の機能」 李 征(京都大学大学院経済学研究科)

【午後の部】

去年に続く「シリーズ・東アジアの労働問題と社会保障」の第2弾として特集「日中韓の公的扶助を考える」というテーマ

の下に、玉井金五会員(大阪市立大学)を座長として以下の3つの報告行われた。

- (1) 「大阪市における生活保護の現状」 西崎浩二(大阪市健康福祉局)
- (2) 「中国における最低生活保障制度の現状」 朱 珉(中央大学)
- (3) 「国民基礎生活保障制度の成果と残された課題—施行後11年を振り返って—」 株本千鶴(椋山女学園大学)

報告後、各国比較の視点から興味ある提起と積極的な議論が行われた。

(文責 櫻井幸男)

6. 国際交流委員長の任期を振り返って

久本代表幹事の時期の2010年から12年の2年間、国際交流委員会委員長を拝命してその任に当たった。

招集した委員会で、任期中に実現するための当面の課題としたものは、1. 社会政策学会の国際的なアピール活動、2. 韓国社会政策学会および中国の社会政策学術集団との学会発表を通じた学術交流覚書の締結、であった。

1の課題の背景には、インターネットの学会案内が現在の社会政策学会の概要を英文のみで短く紹介しただけで、世界中からこの分野に興味を持つ専門家が、本学会及びその活動内容に理解を示し、これに注目することはない、という危惧があった。

そこで、詳細な学会の歴史と現在の活動を、特に関心が高

いと思われるアジア近隣諸国の研究者向けに英語、韓国語、中国語(繁字体と略字体)の4か国語程度に翻訳し、随時紹介するという形を取ろうということになった。

この提案は幹事会では議論のうえ承認されたが、行動の主体が国際交流委員会のマターというよりは、事務局および広報委員会の領域に属する、というのと、この体制が順調に動くまでにはかなりの準備を要する必要がある、委員会としては各々の担当者の積極的な動きに託すしかなかった。

結局、当初案じていたように任期中に具体的な成果を得ることがかなわなかった。しかし、この課題は現国際交流委員会により現実的な提案として継承され、今期中にこの作業が実現するだろうと期待している。

2の課題は1の課題とは異なって、すでに幹事会員による個人的な学術交流の努力が実質的に行われている分野であった。社会政策学会の大会には毎回のように韓国、中国をフィールドにした研究発表が行われ、学会誌にも掲載されている事実があった。私はこうした流れに積極的に加わっていたわけではなかったが、学会内には日本・東アジア社会政策部会も立ち上がっており、学会として正式な学術交流事業を行うには機が熟していると判断した。

韓国、中国それぞれに呼びかけを行い、その実現のために当該国の会員を委員とし、担当窓口にして交流の打診を行った。韓国については順調に交渉が進んだ。

2011年に久本代表幹事(当時)がソウルで行われていた韓国社会政策学会に赴き、双方の学術交流協定にサインすることでこの事業が正式に発足した。韓国の会員2名が123回の秋季大会から京都大学を訪れ、通訳付きでそれぞれ発表を行った。

2012年春には、ソウル・建国大学で開かれた韓国社会政策学会の席に日本側代表として田中洋子代表幹事、報告者として小笠原浩一会員と私が出席し、それぞれの課題について同時通訳のもとで報告した。特に日本の立場と事業の内容を報告した田中代表幹事は韓国語であいさつを行い、参加者から喝さいを受けていた。

韓国の学会に参加すると、国の課題として何を取り上げたい(労働問題や福祉国家の変貌など)のかを、実際に知ること

ができる。これは新たな経験ということができる。

周知のように125回秋季大会にも韓国の代表2名による報告が行われ、この事業が完全に軌道に乗っていることを全参加者に印象付けた。来春に行われる韓国での学会発表のための今期の募集もやがてはじまる。会員におかれては奮ってご応募願いたい。

韓国とは以上のように順調な交流が行われているが、中国とは必ずしもうまくいかなかった。両国とも時期も内容も同じように交渉したのだが、北京社会科学院に属する中国の窓口代表者は、本国に持ち帰り、検討する、とまではしているが、1年近くたった現在もお具体的な反応を示してくれてはいない。社会政策を扱う学問の分野では、日韓両国とも基本的な課題を明確にできる時間的、人的余裕があったが、日中間ではそれがまだ成熟するに至ってはいないように感じる。今期の委員会においても、寛容な精神で引き続き中国との接触を心掛けていただきたいと願っている。

伝統的にそうであるが、社会政策をめぐる課題は、国際的な視野を抜きに論じられない。こうした会員の要望と期待に的確に対応し、結果を残していくことが、以前にもまして重要であろう。後継の菅沼隆委員長による国際交流委員会に期待したい。

(文責 矢野 聡)

7. 研究会情報ブログ

社会政策学会研究会情報ブログをご活用ください

広報委員会では、会員の皆さんが関わる研究会の開催情報について「社会政策学会 研究会情報ブログ」により周知しています(メールによる研究会情報の周知は2010年6月に廃止いたしました)。最近、研究会情報の周知に関するお問い合わせをいくつか頂きました。すでにこのブログについてご存じの会員も多々いらっしゃるかと存じますが、念のためのお知らせです。

研究会情報の掲載を希望する会員の方は、下記の「投稿について」をご一読の上、研究会情報を広報委員会研究会情報ブログ更新チームまでご投稿ください。

なお、研究会情報を便利にご利用頂くために、広報委員会ではRSSフィードのブラウザへの登録をおすすめしています。

また、本年7月から、ブログに掲載された研究会情報をツイッターにより自動的に周知することを試行しています。ツイッターをご利用の会員はこちらもあわせてご活用ください。

社会政策学会研究会情報ブログ:

http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/

投稿について:

http://www.sssp-online.org/seminar_appli.html

RSSの設定について:

http://www.sssp-online.org/rss_guidance.pdf

ツイッター(試行):

<https://twitter.com/ssspblog>

(広報委員会委員長 林 祐司)

8. 道又健治郎名誉会員の逝去について

社会政策学会・名誉会員でありました道又健治郎会員が2012年10月31日にご逝去されました。謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

代表幹事 田中洋子

9. 秋季大会企画委員会報告

先日、長野大学にて開催されました第125回秋季大会において、自由論題・第1で報告が予定されておりました高橋義明会員(国際協力機構)の自由論題報告「東日本大震災の幸福

度に与えた影響」は、発表者の急用により、報告が取りやめとなりました。プログラムの変更として報告いたします。

(秋季大会企画委員会委員長 石井まこと)

10. 2012 - 2014 年 幹事会報告

社会政策学会 第2回幹事会 議事録

日時：2012年10月12日 15:00～17:30
場所：上田情報ライブラリー セミナールーム
出席：阿部、斎藤、櫻井、菅沼、武川、田中、玉井、林、平岡、廣瀬、藤原、山田、矢野、京谷、遠藤(15名)
欠席：石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、所、久本、松丸、宮本、吉村

1. 入会申込み者について
入会希望者14名について審議した結果、承認された。
2. 秋季実行委員会
京谷委員より、秋季大会(第125回)の準備が順調に進んでいることが報告された。
3. 秋季企画委員会
藤原幹事より、秋季大会(第125回)の準備状況が報告された。その中で、自由論題報告者の報告キャンセルについて、今後は学会ニュースレターで、報告キャンセル分について記録として掲載することが承認された。
今回の大会開催に当たり、秋季大会委員会の経費執行について議論した。来年度の秋季大会(第127回大会、大阪経済大学)の共通論題の検討状況が報告された。
4. 春季企画委員会
平岡幹事より、2013年5月25、26日に開催予定の次期春季大会の共通論題のタイトル「ジェンダー平等と社会政策」、報告者(遠藤公嗣会員、森川美絵会員、北明美会員)、趣旨について報告があり、承認された。なお、共通論題は2013年5月25日午後開催されることが承認された。
5. 国際交流委員会
菅沼幹事より、国際交流委員会企画分科会(2012年10月13日開催、韓国社会政策学会との国際交流協定活動の1つ)の準備状況が説明された。また、開催に関連する経費を国際交流委員会活動費から支出することが確認された。
学会ホームページの英文化について、進行状況が報告された。
さらに、今後の国際交流活動として、ヨーロッパの社会政策ネットワークのエスパネット(The Network for European Social Policy Analysis)等やアメリカのLERA(Labor and Employment Relations Association)との交流を進めることをめぐり、幹事間で情報・意見を交換した。
6. 広報委員会
林幹事より、学会ホームページの刷新状況について、今年度中の刷新に努めていることが報告された。また研究会情報のサイトについて、学会ニュースレターなどを通じて広報していくことが報告された。
7. 電子化事業
斎藤幹事より、8月末日締め切りの学会誌の電子化にとも

なう許諾承認の返信状況について報告が行われ、今後、関係出版社と国立情報学研究所との連絡作業を進めていくことが報告された。

8. 社会政策関連学会協議会

武川幹事より、社会政策関連学会協議会主催で2012年8月4日に、「日韓両国における普遍主義論争」研究会が開催され、平岡公一幹事が講演されたことが報告された。

2013年の社会政策関連学会協議会主催のシンポジウムについて、協議会から照会があった場合に、登壇者の推薦も含め幹事会として検討して欲しい旨の依頼があった。

9. その他

事務局より、第124回大会(2012年春季)の大会会計報告が資料として配布された。その他、学会名簿の送付予定の報告、次回幹事会(大会両日)、学会ニュースレターの発行について報告が行われた。

社会政策学会 第3回幹事会 議事録

日時：2012年10月13日 13:05～12:25
場所：上田女子短期大学
出席：斎藤、櫻井、菅沼、玉井、林、平岡、廣瀬、山田、矢野(9名)
欠席：阿部、石井、上原、榎、大沢、佐口、白井、武川、田中、所、久本、藤原、松丸、宮本、吉村

1. 入会申込み者について
入会希望者1名について審議した結果、承認された。
2. 編集委員会
吉村編集委員長から、学会雑誌の編集状況が報告された。学会誌(通巻13号)は2012年12月下旬に発予定。論文投稿状況についても報告があった。小特集に英文論文を掲載することとし、編集委員会が作業を進めることとなった。

社会政策学会 第4回幹事会 議事録

日時：2012年10月14日 11:45～12:00
場所：長野大学
出席：大沢、斎藤、佐口、白井、玉井、久本、山田、吉村(8名)
欠席：阿部、石井、上原、榎、櫻井、菅沼、武川、田中、所、林、平岡、廣瀬、松丸、宮本、藤原、矢野、吉村

1. 入会申込み者について
入会希望者1名について審議した結果、承認された。
2. 春季大会実行委員会
白井幹事より、第126回大会の開催(於・青山学院大学、東京)での開催日時(2013年5月25、26日)と会場状況が報告された。

11. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
2012年10月12日承認分		
秋保 親成	中央大学経済学部	経済理論
荒木 宏子	慶應義塾大学経済学部	労使関係・労働経済、生活・家族
磯野 博	静岡福祉医療専門学校総合福祉学科	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉
井上 克巳	名古屋市立大学大学院経済学研究科	労使関係・労働経済
緒方 桂子	広島大学大学院法務研究科	労使関係・労働経済
岡部 耕典	早稲田大学文化構想学部	社会保障・社会福祉
加藤 雅俊	立命館大学産業社会学部	政治学
上村 一樹	慶應義塾大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉
北原 零未	東京家政学院大学現代生活学部	ジェンダー・女性、生活・家族
今野 晴貴	一橋大学大学院社会学研究科	労使関係・労働経済
菅野 拓	大阪市立大学大学院文学研究科	社会保障・社会福祉
豊田 宗裕	星槎大学共生科学部共生科学科	社会保障・社会福祉
林 真由美	King's College London, UK Institute of Gerontology	社会保障・社会福祉
水野 勝康	愛知県社会保険労務士会	労使関係・労働経済、社会保障・社会福祉
2012年10月13日承認分		
清水佐知子	大分大学大学院福祉社会科学研究科	社会保障・社会福祉
2012年10月14日承認分		
小暮かおり	東京大学大学院医学系研究科	社会保障・社会福祉、助産学

お知らせ 「社会政策学会研究会情報」の更新情報をお手持ちのパソコンのブラウザに配信しています

学会では会員の皆様に、学会に関連する研究会の開催情報を「社会政策学会研究会情報」(http://d.hatena.ne.jp/sssp_information/)より発信しています。

お手持ちのブラウザのRSS機能を活用しますと、「社会政策学会研究会情報」が更新されたさい、更新情報がブラウザに自動的に配信され、2010年6月まで行っていた研究会情報のメール配信と同等の利便性を維持できます。

学会ではInternet Explorer、Safari、FirefoxでのRSS登録方法をPDFにて説明しています。ぜひご利用ください(http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/rss_guidance.pdf)。

